

●中絶禁止法反対！

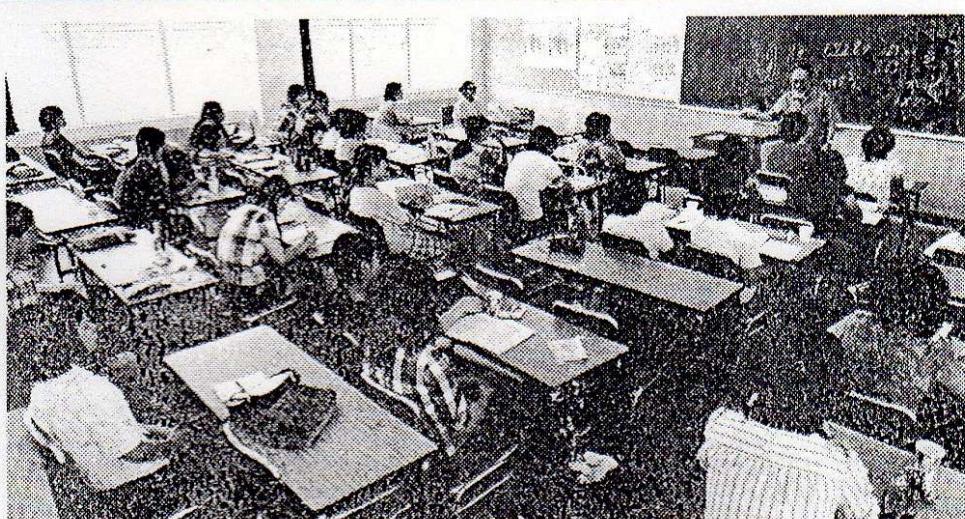
●ピルを全面的に
解禁せよ！

ネオリフ

発行：中絶禁止法に反対し
ピル解禁を要求する
女性解放連合
発行所：東京都豊島区高田
1-36-14(502)
定価：一部50円

第2回中ピ連セミナー開催決定

11・24～11・26 於代々木青少年センター



セミナー時間割

24 金)	優生保護法について 講演・講師を囲んで討論会 etc	保安処分 墮胎罪	プレイコーナー 銃器学 薬物学
25 土)	現代版家族制度と 女性の地位・法律	女性の解剖 と生理	医療体制 中国の医療
26 日)	男性の生理 (パイプカット) 性病	避妊法 (ピル、IUD その他の)	ピルIUDの現状 まとめ

第二回中ピ連女性のための医学講座が十一月二十四日から二十六日まで三日間、代々木青少年センターで開かれます。女自身が、自分の体を守るために知識を子供の時から大人になるまで一貫して与えられない現在、女達が自分達での知識を得る場を設けることは大事なことと考えます。

前の第一回講座において、ありますスケジュールがぎつしりで、質問が十分できないというような御意見の方が多かつたので、今回は的をしぼり、質問が多くできるようにしてみたいと思います。だいたいのスケジュールが決まりましたのでお知らせ致します。

24日。9時30分から5時まで優生保護法についての討論会、夜6時から9時まで「プレイコーナー

26日。午前中は男性の生理（含
パイプカット・性病）について
午後1時から5時まで「避妊法」
の講座。夜6時から9時まで
「ピル・IUDの現状」と、「まと
め」。以上のような予定を組んで
います。

◇

参加希望者は、住所・氏名・参
加費（1日三五〇円、3日間千円
同封のうえ中ピ連までお送りく
ださい。

◇

講師は東京厚生年金病院産婦人科部長の松山栄吉氏で、「ピル・IUD（子宮内避妊具）」についてそれぞれのしくみ、避妊効果、副作用などがくわしく説明された。途中でスライドを使い各種避妊法の避妊効果の比較、出産、中絶、流産の割合、現在の避妊法では中絶は減らないこと、基礎体温の計り方などの説明があった。最後に質疑応答がなされたが、質問が殺倒し、時間の都合上四五分間で打ち切らざるをえなかつた。以下にその時に出たいくつかの質問と答えをぬき出してみた。

中ピ連主催第二回女性の為の医学講演会が十月二八日午後六時半から東京渋谷の山手教会で開かれた。これには二百人ほどの女性が出席し、それぞれが自らの問題としてピル・IUDについて正確な

性のための 医学講演会

ピル・IUDについて 質問続出！

女性のための
医学講演会

子殺しの女に積極的な支援を!

「子殺しの女を守る会」より

最近また連日のように女の子殺し、捨て子、放置事件が新聞に載つてゐる。こういう新聞を見るたびに「子殺しがなぜ悪い！」と叫びたい気持でいっぱいになる。

10月6日の朝日新聞に「マネキンガール自供、子供を石こう詰めにし、毎晩抱いて寝ていた」という記事があつたが、

その新聞記事だけでも、「相手の男が金を送つてこない、出産の為の入院費用が払えない。子供がいては働きに出られない」などが載つていたが、本人に聞いてみれば、もつといろいろな彼女を子殺しに追いやつた状況が出てくるだろう。新聞の記事からだけでも、自分が苦しんで生んだ子を死に追いやる極限状態が想像される。

一般的の女達のうち誰が「自分は子殺しはない。」と自信をもつて言えるだろうか？ ダンナの給料でどうにか食つていけるので家で育児をする主婦。たまたま運よく保育所に預けることができるので賃金を得ることのできる女。また誰かしら預ける人がいる女。安月給だが親元から通いどうにかおしゃれのできるOL。家賃を払うと、あとは自分一人食うだけがせいいっぱいの安月給の女。情況が変わればみんな

子殺しをしなくてはならない女ばかりじゃないか。たまたま極限状態に追いやられた女が子を殺す。「女が子供を殺してなぜ悪い！」

この種の事件が起ると、決まつてテレビの男の司会者は「母親としての資格がない。いいかげんな気持ちで子供を生む。恐しい母親」というようなことばつかりあきもせず言つてゐる。

彼らの言葉の中に男の責任は一切出てこない。どんな風に子供が生まれようと、また生もうと、その子供は人間全体の責任において育てられるべきである。その責任を放棄し、女個人に責任をおつかぶせてはいるのだから、その女が育てられる場合、子供を殺したとて、誰一人としてその女を責めることはできない。ましてや法律で罰するなどとはとんでもないことである。にもかかわらず、女自身が今まで何ら子殺しに對してはつきりした見解を示すことをせず、行動に表わさなかつたことは、子殺しの女をますます「恐ろしい、無責任な女」にしたて

て「子殺しの女を支援する会」の準備会を一〇月三十一日発足し、現在、石井清子さんに對し、さし入れや接見などをつづつ行つてゐる。たくさんの子殺しの女を支援するには多くの女が必要です。

まつてテレビの男の司会者は「ぜひ御連絡下さい。

北区西ヶ原一ー五七一九
須藤莊 河野きみ子

て「主人」に対し「奥様」「家内」「内助」という言葉がある。これは女は結婚すれば皆当然家庭に閉じこまるのだということを露骨に示す言葉である。表立つたことはせず、家の奥でひつそり夫、子供、親を助けるべきとの封建道徳がこの言葉の中に生きている。

ちなみに、「解放」前の中国では妻を何と呼んでいただろうか。「内人」である。「奥様」「家内」「内助」と同様の意味である。しかし、「解放」後はどうなつたか。「同志」「愛人」と相互に呼ぶのである。

互いを一個の人格として認める思想はおのずと言葉にも反映する。頭をたたいてみれば文明退化の誇りが散るようなさるお国で「主人」「家内」という言葉がまかり通るのも、わかります。不思議ですねえ。民法から家父長制が消えた今なお、家に主たる「主人」がいるとは。つまり「田中さん」がひとりしかいないのは。妻は「田中さん」あつての存在なのである。自分自身が存在するのでなく、相手の投影として存する。これは、外交官志望の女の子に、「あなたがならなくとも、外交官と結婚すればよい」というのと同じである。自分は相手と別個の一人の人間であるという当然のことが、当然でないのである。

家は皆同じ姓を名乗るのに、「田中さん」がひとりしかいない不思議ですねえ。田中さんと一緒に「主人」がいるとは。

不思議ですねえ。田中さん一

医学講演会 参加者の声

係りの不手際で、アンケートを十分回収出来なかつたため、ほんのわずかの人たちの声しか聞けなかつたことを、残念に思ふ。

「ビルを解禁せよ」
一〇〇円
「ビルを解禁せよ改訂版」
三〇〇円位予定 近刊
「セミナー講義録」
近刊
「中国の医療見たまま」
近刊

「中国の医療見たまま」
近刊

参加者は、22才前後の若い人が多く、30代の中堅主婦層の人達がほとんど見られなかつたことが、ちょつぱり残念でした。(夕食時は、まずかつた！)

★どの内容を希望しますか？
エトセトラ！
★この講演会の御感想を！
「よかつた」「話の内容がなかなか直接的。みんな、なかなかすんでいる、考へてゐるんだと直面している人にとっては、有り難いことを感じた。実際問題に「内人」「内助」と同様の意味があつたことは字から察せるであろう。しかるに、「解放」以後はどうなつたか。「同志」「愛人」と相互に呼ぶのである。

互いを一個の人格として認める思想はおのずと言葉にも反映する。頭をたたいてみれば文明退化の誇りが散るようなさるお国で「主人」「家内」という言葉がまかり通るのも、わかります。

「ビルについての認識が改められた」という人が多かつた一方、役に立つ知識であると思ひます。

科学評論家」と紹介されているが、それは「生化学専攻」の誤りです。

月刊誌「創」11月号
ピルの全貌

定価100円

書籍案内

現代の眼(十一月号)
朝日グラフ(11月13日号)

報道

出版案内



ただいま議題となりました優生保護法の一部を改正する法律案について、その提案の理由をご説明申し上げます。

優生保護法は、優生上の見地から不良なる子孫の出生を防止するとともに、母性の生命健康を保護するという目的のもとに、優生手術、人工妊娠中絶、優生保護相談所等に関し、必要な事

る改正でございますが、その第一点といたしまして、現行法では、妊娠の継続又は分娩が身体的理由又は経済的理由により、母体の健康を著しく害するおそれがある場合は母体の保護のため、人工妊娠中絶を行うことを認めているところであります。このうち、経済的理由といふ要件につきましては、国民の生活水準の向上をみた今日におきましても、このままにしておくことは問題があり、この際、これを取り除き、妊娠の継続又は分娩が医学的にみて母体の精神又は身体の健康を著しく害するおそれがあるものというように改めたのでございます。

優生保護法〔5〕

改悪案提案理由説明文

項を定めているものでございますが、最近の国民保健の実態の変化にかんがみて、今回、人工妊娠中絶の要件及び優生保護相談所の業務内容をこれに適合するよう改める措置を講じ、もつて、優生保護対策の適切な実施を図ることといたしました。

改正の内容といたしましては、まず人工妊娠中絶の要件に関する

ものである場合は母体の保護のため、人工妊娠中絶を行なうことを認めているところであります。このうち、経済的理由といふ要件につきましては、国民の生活水準の向上をみた今日におきましても、このままにしておくことは問題があり、この際、これを取り除き、妊娠の継続又は分娩が医学的にみて母体の精神又は身体の健康を著しく害するおそれがあるものというように改めたのでございます。

人工妊娠中絶の要件に関する改正の第二点は、優生上の見地からの人工妊娠中絶に関するものでございますが、現行法では、不良な子孫の出生を防止する、という見地から、妊婦又はその配偶者が精神病又は遺伝性奇形をもつ場合等には人工妊娠中絶を認めているところであります。が、近年における、診断技術の向上等によりまして、胎児が心身に重度の障害をもつて出生していくことをあらかじめ出生前に診断することが可能になつてまいりました。

このため、胎児がこのようない度の精神又は身体の障害となる疾患又は欠陥を有しているおそれがあると認められる場合にも、人工妊娠中絶を認めることが、改正の内容といたしました。

(八号に続く)

「現代の眼」11月号に△集団の発見△というコーナーの中ピ連のことが掲載されていましたが、

(本当はほとんどその原稿を書いた鈴木いづみと自称作家の個人的意見が書かれてあつたのだが)その記事を書いた鈴木いづみ氏の意見に對してこちらの見解を述べてみたい。

(以下「」内の文章は「現代の眼」より抜粋)

「……その種の活動をしている人々のうちには、きれいな女性はあまりいない、というのが世間一般の観念らしい。ところが彼女はきれいな人だから、わたしは困ってしまうのだ。何が困るかといえば、女性解放という理念がどこから出てきたか、といふことについてである。解放

する人々のうちには、きれいな女性はあまりいない、というのが世間一般の観念らしい。ところが彼女はきれいな人だから、わたしは困ってしまうのだ。何が困るかといえば、女性解放という理念がどこから出てきたか、といふことについてである。解放

的、ところが結婚して数年たつと何かおもしろくなくなつてくるのだ……」

鈴木いづみ氏によると、きれいな女性がなぜ女性解放という理念をもつかわらない、またリブをやつている美人な女性は結婚して数年たつと何かおもしろくなつものたりないという感想をもつのだという。しかし、いわゆるきれいな、男どもにもてる女が女としての抑圧を受けていないというのだろうか、また結婚して数年たつた普通の女性が結婚生活に満足しているとでもいうのでしょうか。美人だろうがブスだろうが、結婚生活における女としての受ける抑圧に対する女性が不満をうつ積み合っているのが現実の姿ではないか。

書かれていることが矛盾している。「ピル全面解禁、中絶の自由、女が産まないことの権利、といふことを聞くと、そういう考え方をする女たちは、男にとつて非常につごうがいいのではないのか、と思えるのだ。」

なぜ男にとつて非常に都合が良いのか?よく考えてみると男

ではないことは、おそらく男自身が一番よく感じとつているのではないか。

また鈴木氏は「ピル使用が許されている国の中の子たちは日本の女の子に比べてずいぶんつらい立場にたたされているが、日本の女の子は主体性とか自由の心配なしということ自体がそうである。何の不安感も危険もない快樂は快樂といえるだろう。日本の人びとは、主に年上で気が強く、なにかものたりないという思想を結婚生活にもつてゐるらしい。子供のところから両親および教師のお気に入りタイプであつたし、十代の後半からは男どもの賞讃の

「自称作家」 鈴木いづみ氏に抗議する

いつたい鈴木氏は中絶を何と考へているのだろうか?何の不安感もない快樂はつまらないから、

感はない快樂はつまらないから、

「結婚さえすれば、いいダンナをつかまえれば、さも女は幸福になるようなイメージをもち、

そうした結果、実はそんな樂にぬくぬくとは生きられないのだ。」

このことわざがあるのです。

「一同、うらやましいという顔で国家がいちばん望むものである」ならば、ではいつたいなぜピルをすぐさま解禁しないのか。それを、

「一同、うらやましい」という顔で国家がいちばん望むものである」ならば、ではいつたいなぜピルをすぐさま解禁しないのか。それを、